

かたの 寺社巡り

ノルディックで
指定文化財を歩く

- 6 -



市内の指定文化財を巡る「ノルディックウォーク」を11月・30年3月に開催します。それぞれのコースで見ることができる指定文化財について、連載しています。

今回は、廃千手寺と市指定文化財の聖観音立像、如意輪観音坐像を紹介します。

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)



廃千手寺

廃千手寺は、かつて私市の小字名院田にあり、山号は亀山、観音寺ともいわれる真言宗の寺院でした。

江戸時代中期には、寺の大改修が行われ、寺勢があつたことがうかがえます。延宝9年(1681年)の私市村絵図(現在、歴史民俗資料展示室で展示中)にも、観音堂との記載があります。しかし、明治以降は住職が不在となり、衰退の道をたどりま

す。その後、老朽化の進んだ千手寺は解体され、安置されていた仏像は、私市地区で同じく廃寺となっていた蓮華寺の仏像と一緒に保存するために、収蔵庫が建設されました。

市指定文化財

木造聖観音立像

聖観音立像は、着衣の形成や木造りで内ぐりを施さないなど、古式の構造が見られることから、平安時代後期の制作と推定されます。市域にあって、平安時代にさかのぼる数少ない資料の一つといえます。

市指定文化財

木造如意輪観音坐像

如意輪観音は六観音の一つで、苦しみを救い、求める願いをすべて成就させる観音です。その静かな面相や装飾的で、やや厚めの衣文の彫法などから見て、室町時代の制作と推定されます。この像は、千手寺の本尊として祀られていましたが、元来の本尊は千手観音であったようです。



収蔵庫内



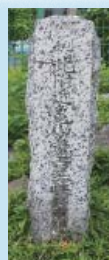
私市村絵図



豆知識

小字名「院田」について

元禄年間に記された黄檗僧月潭の「獅子窟寺記」によると、病中の亀山上皇が獅子窟寺の薬師仏(国宝)に平癒を祈願するため、小堂のあったこの場所を行在所とし、回復後には寺院の再建や、千手観音像と田を寄進したとされます。観音像は現存しませんが、現在残る井手之内という地名は、死後、亀山院と呼ばれた上皇の寄進田を示す「院田」に由来するといわれています。



観音寺を示す石柱

